科目ナンバリング	G-LAS15 80031 LB95						
授業科目名<英訳>	総合生存学（ウェルビーイング） Introduction to Advanced and Integrated Studies in Human Survivability (Wellbeing)			担当者所属職名・氏名	総合生存学館 教授 齋藤 敬 総合生存学館 特定准教授 篠原 雅武 総合生存学館 教授 趙 亮 総合生存学館 准教授 Deroche, Marc-Henri 総合生存学館 准教授 水本 憲治 総合生存学館 特定教授 宇佐美 文理		
群	大学院横断教育科目群	分野(分類)	複合領域系			使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木1	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（総合生存学館の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

総合生存学とは、紛争、経済格差、気候変動、自然災害、環境破壊、パンデミック、少子高齢化など、人類の日常と未来を脅かす社会課題について分野横断型のアプローチで解決を目指す実践的な学問です。
この科目は、こうした総合生存学が取り組む具体的な領域として、ウェルビーイングに焦点を当て、これら領域における課題解決の具体的な実践方法を自ら考えるための基礎力を養うことを目的にするものです。この目的を達成するために、ウェルビーイングに関する基礎的な知見について、自然・社会科学/人文・社会系にまたがり学際的に解説していきます。また、その前提として、総合生存学が目指す総合知の習得と分野横断的な学術研究方法についても講義します。

[到達目標]

・人類をとりまく地球規模課題に関する幅広い知識を得ると共に、分野横断型・文理融合型の学問に対する取り組み方や研究方法について理解する。
人々の健康や健康長寿社会について多面的に考察し実現を目指す
・総合生存学の基本的考え方を理解した上で、その具体的な実践領域としてのウェルビーイングについて基礎的な知見を習得する。

[授業計画と内容]

以下のスケジュールに従い、それぞれの分野を専門とする教員が講義を行います。授業中、積極的にディスカッションを取り入れます。なお、講義の進捗等によりスケジュールを変更する場合があります。
（1）総合知を考える‐科目の内容と進め方の説明【1週（メディア授業：同時双方向型）】担当：齋藤
（2）分野横断研究を考える【1週（メディア授業：同時双方向型）】担当：齋藤
（3）テーマA．人新世の視点からウェルビーイングを考える　【2週】担当：篠原
（4）テーマB．情報の視点からウェルビーイングを考える　【2週】担当：趙
（5）テーマC．マインドフルネスの立場からウェルビーイングを養う【2週】　担当：Deroche
（6）テーマD．感染症と人類の関わりからウェルビーイングを考える【3週】　担当：水本
（7）グループに分かれウェルビーイングに則った融合研究のテーマ設定　【1週（メディア授業：同時双方向型）】担当：Deroche
（8）学生プレゼンテーション【2週（メディア授業：同時双方向型）】担当：Deroche
（9）フィードバック【1週】担当：Deroche

全体コーディネーター：総合生存学館 准教授　DEROCHE，Marc-Henri Jean

総合生存学（ウェルビーイング）(2)へ続く↓↓↓

総合生存学（ウェルビーイング）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業内ディスカッションへの積極的な参加（30点）、ウェルビーイングに関する小課題（40点）、研究計画案のプレゼンテーション（30点）により、到達目標の達成度を総合的に評価します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
川井秀一・藤田正勝・池田裕一　編『総合生存学: グローバル・リーダーのために』（2015）
池田裕一　編著『実践する総合生存学』（2021）

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストや講義中に紹介する文献などを参考にしながら授業外学習を行い、講義内容の理解を深めてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

各授業担当教員との面談を希望する学生は、(1) 名前・学籍番号・所属、(2) 面談希望日時（第3希望まで）を書いて、電子メールで連絡してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]